

奈良新聞

NARA NEWS PAPER
〒630-8686 奈良市法華寺町2番地4 電話(0742)32-1000(代)
発行所 奈良新聞社 奈良新聞社 2014
本社(ダイヤルイン)0742-0742-
社(ダイヤルイン)0742-
総務課・経理課 32-2111 中南和支社 0744-29-1144(代)
営業課 32-2112
編集部 32-2113 大阪支社 06-6211-2797(代)
販売課・シニア事務局 32-2114 06-6211-2797(代)
文化事業課 32-2115
出版部 32-2116 東京支社 03-5565-0031(代)
なららびんぐ課 32-2117
なららびんぐ課 32-2118
www.nara-np.co.jp

まごころこめて家づくり、街づくり
三和住宅
奈良市西大寺東町2丁目1-63(サンワシティ西大寺5F)
☎0742-36-3030 URL http://www.sanwajutaku.com

リニア見学バスツアー
~「どきどきリニア館」と「富士山」周遊観光~
1泊2日
リニア見学特別企画
※写真提供/山梨県立リニア見学センター

【発売日】8月23日(土)
=1泊3食付(1日目昼・夕・翌朝食)=

若い感性を県政に

県内大学生ら政策提案

県が、県内の大学各々に在籍する学生から政策提案を受け、事業化にも結び付けようとした。県内大学生が創る奈良の未来事業が3年目を迎えた。昨年度は3グループだった応募が本年度は20グループに増えるなど、若い感性を県政に生かすという県の狙いは着実に浸透しつつあるようだ。奈良市登大路町の県議会本会議場で22日に開かれた公開コンペでは、奈良女子大学のグループが提案した「楽しく健康!健康!健康!」を最優秀賞に選ばれた。

7グループ 公開コンペ



県政の課題について、政策提案を行う学生=22日、奈良市登大路町の県議会本会議場

奈女大グループ最優秀

今回は応募のあった20グループの中から事前審査を通過した7グループがプレゼンテーションを行い、荒井正吾知事を委員長、栗山道義県政策顧問(奈良新聞記者審査委員)を副委員長とする10人の審査委員が審査した。これまで優秀賞は2提案としてきたが、優劣つけがたいとして3提案の入賞となった。学生も含め、農業に

「楽しく健康!健康!健康!」を目標に掲げ、学舎の屋上を活用する「屋上農園」の試みも挙げている。



冷たい奈良の味

台湾茶と大和茶の専門店、奈良市小西町の「おちやの」(岡田英一代表)で、かき水が人気を呼んでいる。平成19年に奈良市餅殿町のもちののチャレンジショップでオープン以来、かき水は変わらぬ人気メニュー。いよいよ、今年も現役という。生葉は朝5時から手摘み、その日のうちに地区内の旭ヶ丘農業生産販売協同組合から、一日平均約4千枚を共同出荷。堀光博副組合長(63)は「体力的にしんどいので、やめたいと言っていた農家が葉の栽培に転換。お年寄りも生きがいを持ち、社会全体の健康に貢献できれば」と話す。

「らくらく農法」優秀賞

将来の社会モデルとなる取り組みを表彰するプラチナ大賞(7)のうち、最終審査が22日、東京都千代田区の都市センターホテルであり、下市町の農村高齢化対策「らくらく農法」が優秀賞を受賞した。大賞は環境技術と国際協力を持つ、賞した北九州市の「アジアのグリーンシティ」やマタホイルディングスの過疎・高齢社会支援サービス「まごころ宅急便」だった。優秀賞は下市町を含め3団体が受賞した。

下市町 柿の葉生産紹介
柿の生産が盛んな同町(橋原地区)95世帯約2700人で平成23年から始まった産官学民のプロジェクトで、技術開発に伴う省力化や新たなビジネス展開、住民の健康づくりなどを進めている。応募約70件のうち最終審査に残ったのは10団体。杉本龍昭町長は活動する様子が映し出された。取り組みの一環で、



「らくらく農法」プロジェクトの成果をまとめた冊子「らくらく農法」の発行を記念して、下市町産の柿を箱詰めして出荷する畑さん(22日、下市町橋原地区旭ヶ丘農業生産販売協同組合)

きょうの紙面

住民が天井絵色付け 11

3 南銀が「便利カード」
6 天理など3回戦突破

7 白鵬単独トップ守る
10 女性向け寺案内冊子

テレビ12
ラジオ5